



リフォームの概要を石垣充教授（左から2人目）から受ける学生たち

京築ヒノキ作品 古民家で構想

改装中の「展示場」 学生ら見学

京築地域特産のヒノキを使った木工作品の制作を目指すプロジェクト「ちくらす」を進める西日本工業大デザイン学部建築学科（小倉北区）の学生が27日、作品の展示場にする行橋市南大橋4丁目の古民家のリフォーム工事現場を見学を訪れ、内装や展示物などの構想を練った。

行橋

プロジェクトは、同大と西南女学院大（小倉北区）の学生が協力して、2年前から始動。若い人が好むた

プロジェクトは、同大と西南女学院大生が市場調査、その結果を受けた製品化を西日本工業大生が担当する。名刺入れなどの開発品

は商品化に向けて動きだした。

展示場は、西日本工業大非常勤講師で地域連携コーディネーターの西村健司さん(45)の妻淳子さん(43)の生家。現在は誰も居住しておらず、学生のプロジェクトのために提供した。リフォームは展示場と同時に、西村さん夫婦が将来住むことが前提。2年前から、同大の石垣充教授(48)と、当時の石垣教授のゼミ・研究室で学んだ学生が設計、9月から工事を始めた。

見学したのは石垣ゼミの3年生12人のうち6人。工事を担当する施工管理業者「片山設計」（小倉南区下買4丁目）の片山英樹さん(45)から工事の概要などの説明を受けた。現在、居間の柱の付け替えや壁の張り替えなどが行われている。今後、6人は京築ヒノキを使った床工事の手伝いに加え、家具や展示物を飾る棚など調度品の設計、制作を担うという。

3年生の一人、中川太圭増さん(21)は「自分が設計、提案する調度品などがかたちになるのはうれしい」とやる気満々。石垣教授も「ゼミ生らといい物を造りたい」と話した。リフォームは12月～来年1月に完成し、その後、順次展示物を搬入する。（佐伯浩之）